

令和7年度第2回高次脳機能障害者相談支援研修会概要報告

1 目的

区市町村等地域関係機関及び関係医療機関等において、高次脳機能障害者の相談支援業務に携わる職員に対し、高次脳機能障害及び支援方法について、講演を通じて情報提供をすることにより、相談支援の実務の向上を図ることを目的とする。

2 日時：令和7年10月21日（火）午後1時10分から午後4時10分まで

3 場所：国分寺市立いずみホール Aホール

4 申込者：184名 参加者159名

5 内容：テーマ：高次脳機能障害のある方が自分らしく生きる自立とは

～本人・家族の想いは？支える支援とは？～

講師：第1部 講演 一般社団法人 TMG（戸田中央メディカルケアグルー

プ）本部 リハビリテーション医療 特別顧問（東京慈恵会医科大学客員教授、東京都立大学客員教授）渡邊 修氏

第2部 トークセッション 社会福祉法人万葉の里 国分寺市障害者センター
地域活動支援センターつばさ

元利用者（高次脳機能障害ご本人）

鈴木 世代 氏

主任

松原 真生 氏

主任相談支援専門員

小杉 理 氏

一般社団法人クリエイティブ・ソーシャルワーカーズ・ジャポン就労移行支援・
就労定着支援レジリエンス

元利用者（高次脳機能障害ご本人 東電ハミングワーク株式会社清掃事業部 副班長）
法人代表・サービス管理責任者

田沼みずほ氏
蟹江こうじ氏

6 アンケート結果より 回答数98件（回収率61.6%）

第1部 講演について （大いに参考になった70 参考になった28）

- ・自立とは周りの手助けも借りながら出来ることだと学んだ
- ・本人の意思決定について悩みながら支援していたので、とても参考になった
- ・本人の意思を尊重しながらも不利益にならないように見守っていくというのは、とても難しいと改めて感じた
- ・本人が話していることと、判断が一致しないことについて、医療的な面からの説明がわかりやすかった

第2部 トークセッションについて

（大いに参考になった61 参考になった31 普通6）

- ・本人が感じる場所について、素直な言葉を聞くことが出来た
- ・自分の言葉を必死でつむぐ姿に感動した
- ・普通の当たり前の話で支援とは何かを考えさせられた
- ・病気をして自分になれたという言葉が印象的だった
- ・失敗させないと習ってきたが、失敗を重ねることが学びとなるという考えに大いに共感した

7 その他 まとめとして、渡邊先生より

- ・2人の生の声を聞いて参加者の皆さんは、身に染みたと思う。2人を支える支援者はチームを作って支援している。人はたくさんの人たちに支えられながら生きている。人は社会の中で生きていかなければならない、障害があろうと、無かろうと。一番良くないのは孤独にすること。助け合いながらやることが、自立（自律）を高めるためには必要である。

参加職種内訳

職種	n=159
社会福祉士	30
障害者事業所の相談員	26
MSW	17
就労系事業所の支援員	15
作業療法士	12
精神保健福祉士	12
事務	10
保健師	10
言語聴覚士	8
介護事業所の相談員	4
看護師	4
理学療法士	4
医師	2
就労支援コーディネーター	2
入所事業所の支援員	2
介護職	1
就労・生活支援者	1
認知症地域支援推進員	1
その他	3